

第1学年 算数科学習指導案

日時：平成18年6月21日(水) 13:50~14:35 場所：2階1年教室 授業者：中島 雅子

- 単元名 「のこりはいくつ ちがいはいくつ」
- 単元の目標
 - 減法が用いられる場面を知ることや、計算方法を理解することに意欲をもつ
 - 減少の場合、比較の場合について、減法の意味を理解する
 - 減法が用いられる場面について、その関係を式に表すことができるとともに、「ひく」「ひきざん」などの用語を正しく用いることができる
 - 10以下の数から1位数をひく減法の計算方法を理解し、正しく計算することができる
 - 10以下の数から1位数をひく減法の適用問題を解いたり、問題を作ったりすることができる
 - 10以下の数から1位数をひく減法の計算カードを使って計算の練習をし、計算に習熟する
 - 0を含む減法について、式の意味や計算方法について理解し、用いることができる

3. 児童の実態と本時の指導に関して

男子9名女子6名、計15名で活力あるクラスである。

今まで算数の授業準備やノート・ブロック等の使い方を指導してきた。話がしたくて、席を立ち黒板に押し寄せてくる子や、挙手して当たらないと「どうして?」と文句を言うなど、1年生らしい集団である。ブロックを見てすぐ数が分かる子と、順に数えて答える子など、個人差はすでにある。

「あわせていくつ・ふえるといくつ」の単元では、ブロックを操作することで合併と増加の違いを見つけた。話は違ってもどちらも2つの集合を合わせた個数を求める演算で、加法が使えることを理解させた。本時では、導入で金魚をすくう場面から、今までとの違いがわかるようなブロック操作を考えさせたい。ブロックで操作したことを言葉や式で表現できること、「ひきざん」の演算であることをおさえたい。また、ペアで手の操作を確認させるなど、何度も繰り返し操作することができるように、活動形態を工夫していきたい。

4. 単元指導計画 全8時間 (別紙参照)

5. 本時のねらい

減少の場面について右手でブロックを動かして取り去る操作を通して、減法の意味を理解し、数字や記号を用いて減法の式にあらわすことができる

6. 本時の展開 (本時 1/8)

	学習活動	個に応じた指導	留意点
つかむ	1. 問題がわかる 金魚が5ひきすいそうに入っています。2ひきとると、のこりはなんびきになるでしょう。	本時の評価規準：考え方 金魚をブロックに置き換えて、ブロック5個から2個とればよいと考えることができる	・問題場面の図を用意し前時までの違いが分かるように提示の仕方を工夫する
考えを持つ	2. 課題がわかる のこりはなんびきになるか、ブロックを使ってお話ししよう	ブロック操作する場面でのつまずきの様相と教師の支援 ブロックを5個と2個用意しあわせて7個にし、2個とる ①■■■■■←■■ ②■■■■■→■■ ③■■■■■のこり5 ↓ 初めの金魚と残りの数が同じことに気づかせ、もう一度考えさせる	・ブロックの操作をしやすいように机上を整頓させる
ふかめる	3. ブロックの操作を考えることができる ①■■■■■ ②■■■■→■■ ③■■■■「のこりは3」	残りは3になるのに、ブロックを5個と2個用意し7個になるので、どうしてよいかとまどう ↓ 2個と同じだけのブロックをとればよいことを押さえ、どこから2個とるか考えさせる	・合併と増加の学習のまとめを掲示し、いつでも学習を振り返ることができるようにしておく
まとめ	4. 言葉で表すことができる 「5から2とると、のこりは3になります」	ペア活動の場面でのつまずきの様相と教師の支援 言葉と操作がうまくかみ合わない ↓ まず言葉を唱える練習をさせ、右手を担当がもち一緒に操作する 右手操作が上手くできない ↓ ペアの操作を繰り返し見させることで、まねをしながら唱えさせる 上手く操作でき、あぐむペア ↓ ペアを変えて、何度も繰り返し操作させ、自信を持たせる	・ペア学習のやり方を、実際にやって見せながら説明する
まとめ	5. ペアでブロック操作の確認をする		・ノートの書き方を板書で示す
	6. 「ひきざん」の用語を知り、式を書き、読むことができる しき：5-2=3 読み方「5ひく2は3」 こたえ：3びき		